

# 法親寺新聞

2016年 お盆号  
手書き新聞 No.23



こんにちは。釋紗音です。  
今年もお盆がやってまいりました。  
お盆は本来『盂蘭盆会(うらぼんえ)』と呼ばれ、元になった盂蘭盆経には、こう説かれています。  
お釈迦様の十大弟子の一人、目蓮尊者は、自分のことを大変可愛いがってくれた母親が、死後の世界で餓鬼道におちて苦しんでいるのを、神通力で見てしまいます。食えに苦しむ母親に、水や食べ物を出しても、口に運ぼうとすると、炎になって消えてしまいます。  
目蓮尊者は、お釈迦様に相談し、教えられた通りに夏安居(げあんご)僧侶が室内にこもって修行する期間の終わる7月15日に、修行僧に飲食を施して、母を苦しみから救いました。これが お盆の始まりであり、その時の目蓮尊者の喜びの踊りが、盆踊りの元になったと言われています。

目蓮尊者の母親は、息子を大七刀にしすぎたために、他人の子供はどうなっても構わないと見放してしまっていたのです。しかし、良く考えてみると、世間ではこのようなことは良くあることかもしれません。自分の幸せの為なら、他人のことはどうでも良いといった行いを、気付かぬうちにしているのではないのでしょうか。  
お釈迦様は、自分を大七刀にすることは悪いことだけれど、その大七刀にしようとする優しさを周りの人にも分けてあげることが、本当の人間の在り方であると教えてくださっています。  
お盆は、亡き方をご縁に仏法に触れることで、私自身と向かい合い、いつかは命が終わる無常性を見つめると共に、気付かぬうちに地獄行きの行いをしている私を救ってくださる阿弥陀様がいてくださることに、改めて感謝を申し上げる日です。亡き方のお陰で今の自分があることにも、感謝してお念仏申しませう。

## 仏教婦人会総会『寺ヨガ』 6月16日



法親寺仏教婦人会総会が開催されました。お参りの後、事業報告、決算報告、続いて住職の法話を聴いていただき、ヨガのインストラクター星加香代子先生を講師にお招きし、『寺ヨガ』を行いました。仏様の前で、香を焚き、幻想的な音楽の流れる中、皆さま癒しの時間を過ごされました。

## お盆法座 7月16日



お盆の法座が勤修されました。住職を導師に参詣者全員で『仏説阿彌陀経』をお勤めいたしました。引き続き講師に本願寺派布教使の兵庫県東市原市西原寺住職 佐々木大観師をお迎えし、法話を聴かせていただきました。

## 念仏奉仕団と大谷本願納骨 6月21日



40名の皆さまと共に、一泊二日の日程で西本願寺念仏奉仕団並びに大谷本願に参拝させていただきました。国宝「飛雲閣」前の庭(清翠園)国宝「阿彌陀堂」などの清掃を行い、奉仕団の日程が終わった後は、大谷本願で納骨参拝を行いました。(写真上) ご門主様との記念撮影 (写真真中) 宿泊した魚岩旅館の晩御飯 (写真下) 開法会館での夜の常例布教



住職の法話  
今年もお盆の時期となりました。  
家のお仏壇やお墓の掃除は出来ているでしょうか。  
お盆は何処のご家庭に参らせていただいてもお仏壇はきれいに掃除されお花や御供も整えられています。お墓もきっと同じでしょう。  
しかし、お盆の時期以外の普段のお仏壇やお墓はどうなっているか気になるところです。お仏壇の扉は閉まったまま、扉は開いていてもお花は枯れ御供の果物が干からびているというようなことはありませんか。お仏壇は家の中であり、家族の心のよりどころです。私たちは仕事に追われ、雑事に追われ忙しい毎日を送っています。しかし、そんな私たちがからこそ、毎日きれいに掃除されたお仏壇にお花や御供を飾り、お参りしたいものです。  
一茶の「かたつむり どこで死んでも わが家かな」という句があります。かたつむりは、どこで命終わろうともそこがわが家であるから何の心遣いもいらないという意味です。阿弥陀様の救いの中にある私たちも、どこで命終わろうと悟りの世界に生まれる身にあるのだから、後生については何の心遣いもいりません。  
お盆をご縁に阿弥陀様の光に抱かれた私であることを喜びお念仏いたしましょう。



住職が出席致しました!!  
有馬温泉で兵庫教区  
組長・副組長等合同研修会  
6月13日、14日



神戸別院で第25代専如  
ご門主 伝灯奉告法要等  
についての本願寺派総局  
による公聴会  
6月28日



西本願寺で全国組長研修会  
7月13日、14日



栃木

日光江戸村

足尾銅山



400年の歴史を誇り、かつて日本一の鉱都と呼ばれ、大いに栄えた足尾銅山。



トロッコ電車に乗って薄暗い坑道に入っていくと当時の辛く厳しい鉱石採掘の様子が人形芝居で再現されています。



テーマパークの中は、江戸時代が完璧に再現されています。自分が変身もできますよ。



お店で「おせんべい」火籠き体験もできました。自分で火籠くおせんべいは格別です。



とっても大きなお馬さんが歓迎してくれました。



お店の人も全員が「江戸人」です。本当に江戸時代にタイムスリップしたみたいで楽しめました。

おしえて住職  
Q&Aのコーナー

Q... お経の本は、なぜ畳に直接置いてはいけませんか?  
(床や地面も)

A... 私たちが日頃お勤めに使用しているお経本(お聖典)は、私たちに向けての仏様の尊いお話が説かれています。置く時は、膝の上に置くか、ハンカチやお盆の上に置きましょう。



おいしいラーメンで休憩。食べるお店以外にも、牛糞剣や矢場、お芝居、職業体験などもありました。忍者からくり格闘迷路や、川馬町家屋敷はとておススメです。